

Science and Technology English I II

STE Vision Meiji University 2020

Vision.pptx 12 Slides December 16th, 2019

<http://mikami.a.la9.jp/mdc/mdc1.htm>

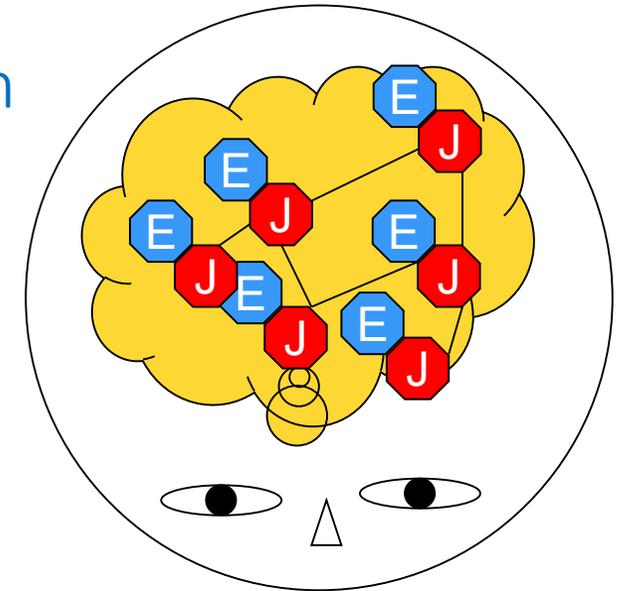
Renji Mikami

Renji_Mikami(at_mark)nifty.com [mikami(at_mark)meiji.ac.jp]

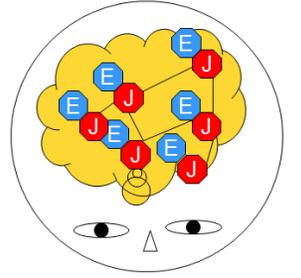
Contents

- 1. 英語に対して苦手意識のある人へ
- 2. 英語コミュニケーションの始めかた
- 3. 状況によって意味が変わる英語
- 4. 仕事や技術の実務的な英語とは - 4 つの Domain
- 5. 英文をそのまま理解
- 6. Inbound と Outbound
- 7. レポート課題の”要約”の採点ポイント

このマークは
“Brain” で
解説します



1. 英語に対して苦手意識のある人へ



- 苦手意識が働くと”脳ブロック”が起こる > “Brain”で解説します
- 慣れること – リラックスして、身構えない
 - 読んでわからないところは、受け流して次に進む(止まらない)
 - もういちど読んでみる、時間をおいて繰り返す
- 話し言葉と書き言葉の違いを意識する
- 英文をそのまま(英語のまま)理解することを意識しよう
 - 状況のイメージを作る(日本語に訳さなくていい)
- 実践的に使うことで英語は上達する。(Plan-Do-See)
- 反復はさらに効果的。 > Brain で解説します

2. 英語コミュニケーションの始めかた

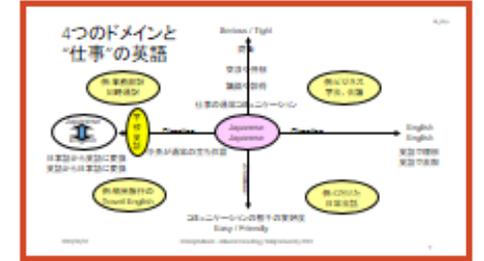
- 多国籍、多様な文化の人たちが“英語”を使って思いを伝え合う。それぞれの違った常識や習慣があり、お互いに分からない/知らないのが当たり前、空気読んで合わせる必要もない。Fluentである必要もない。
- **Hesitateしない**、わかったふりをしない(知らないことは恥でも失礼でもない。わかったふりは最悪)
- 分からないことはわかるまで**聞き返す**、わかったら確認する
 - You mean + 自分の言葉での反復
- 聞き返しても失礼にあたらない。
 - 教養ある人は言葉を選んでわかるように話してくれる
- 相手は、こちらのレベルに合わせて話してくれる。
 - 何故なら話す側は相手に伝えることを目的にしているから(共感, 納得)
- 流暢で上手な発音で話せると困ることもある。
 - 通じると思われてくださった英語でまくしたてられるとギブアップ

3. 状況によって意味が変わる英語

- *I was born to love you.* を訳してみよう
- 学校(受験)英語では Freddie Mercury (QUEEN) は出てこない
- 文法的には、to infinitive の扱い
- 英語を楽しく深読みしてみる
 - Was born = 生まれた?
 - You は誰
 - Freddie Mercury が言ったら
- 文意は状況(situation)によって変わる



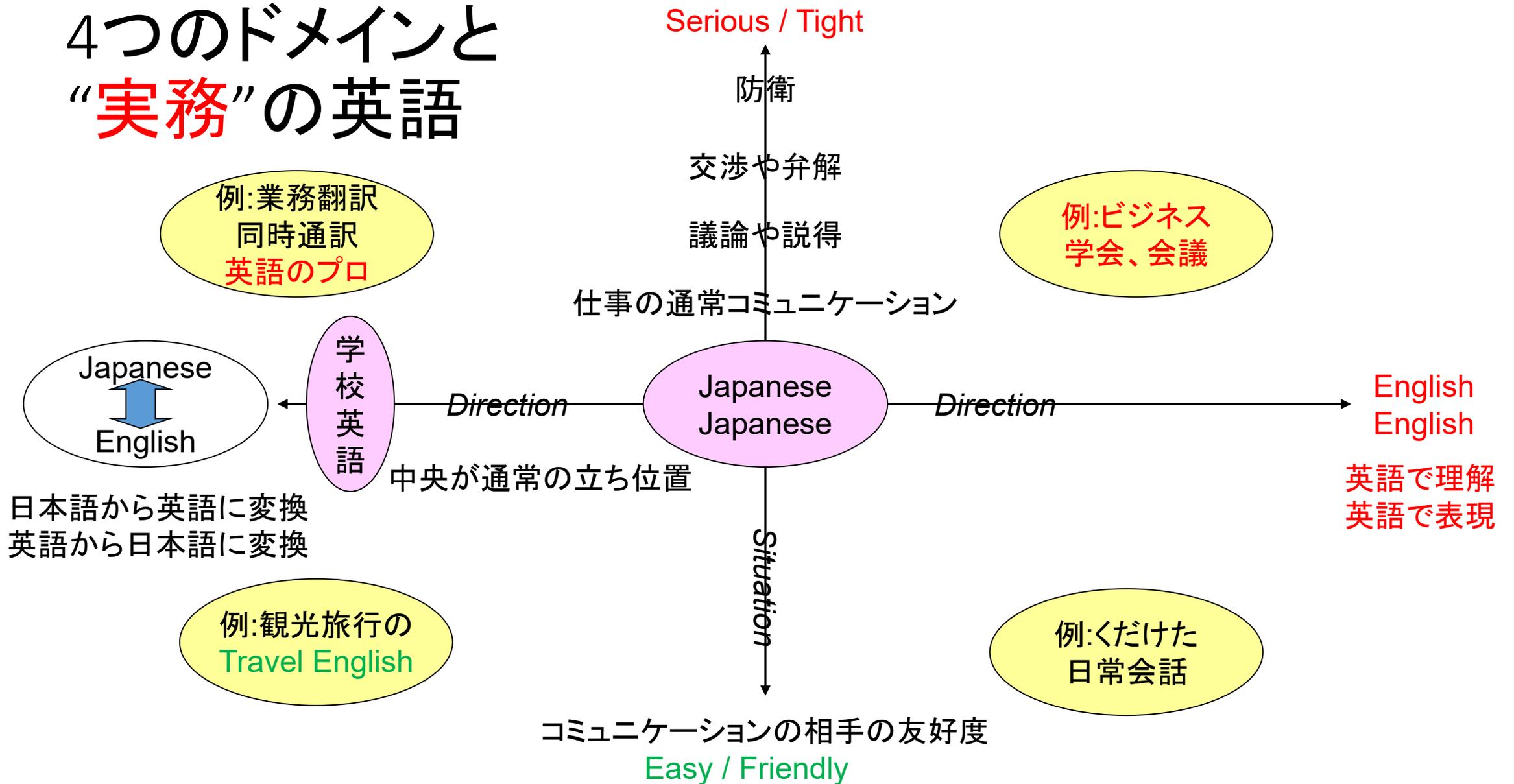
4.仕事や技術の実務の英語とは - 4つのDomain



- 英語コミュニケーションを状況に応じて考えてみる
- 2軸(Y軸)状況のシビアさ(緩:ゲーム 中:仕事 高:交渉 急:生命 など)
- 1軸(X軸)正方向(無変換:英語<->英語), 負方向(変換:英語<->日本語)
- 非母国語の人には、1象限が難しい
- 4つのドメインと“仕事/実務”の英語
- 目指すところは、1象限 (Native like)
 - 英文をそのまま理解して“内容”のイメージを作る
 - イメージに使う単語は英語そのままでもよい
 - 例 : 1947年 first pointcontact transistor が invent された
- “Study”では、実務の Inbound/Outbound を解説します

逐次 日本語に
精訳しない
(受験英語からの
グレードアップ)

4つのドメインと “実務”の英語



目標ドメイン

Serious / Tight

英語で戦う

ロジックと
数字



英語の専門家の英語
英語のプロの世界

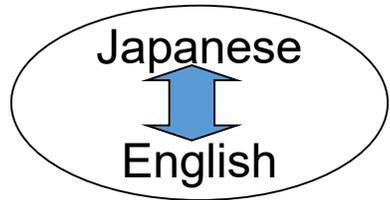
防衛

交渉や弁解

議論や説得

仕事の通常コミュニケーション

英語で理解
英語で考える



受験の英語

Direction

Japanese
Japanese

Direction

English
English

Situation

Japanese
Japanese

Easy / Friendly

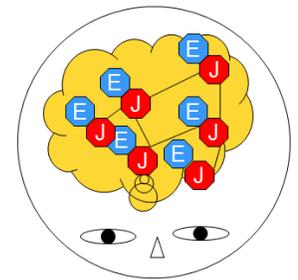
Inboundができれば、
Outboundを目標に
("Study" で解説します)

5. 学校英語的日本語訳をしているケース

- 英単語に対応する日本語訳を理解(一対一対応で暗記)している
- 英文を英単語に分解してそれぞれに日本語を割り当てる
- 文法をもとに日本語訳をくみ上げる
- それらしい日本文は出来上がるが、その内容はよくわからない。
- テストでは点数を稼げるが、内容がわからなければ仕事(実務)では役に立たない

- そもそも英単語に日本語訳を割り当てて、日本語で内容を理解しようとしていることに無理がある。(そもそも**単語**や**英語**は**状況**によって**意味**が**違って**くる。)この方法では、とても時間がかかり、仕事にならない。

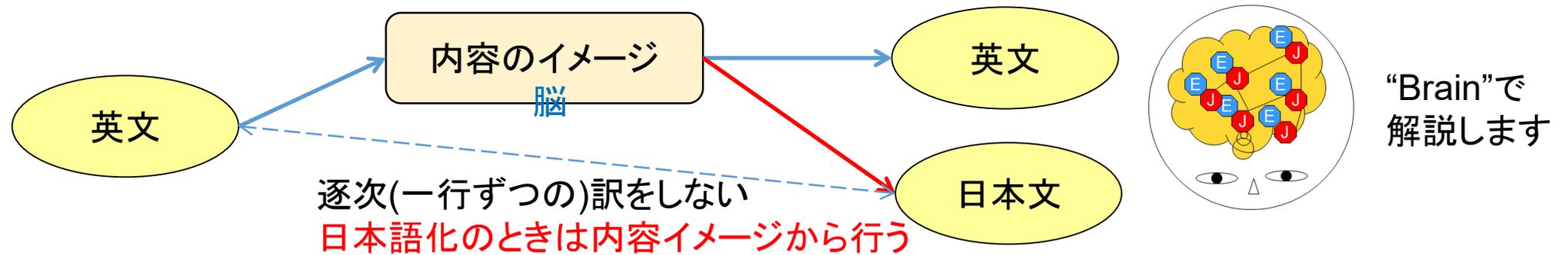
- 英単語と英文をそのまま状況イメージとして脳に作り出そう。
- 状況イメージができれば、そこから脳力で意味や内容を類推できる。



英文をそのまま理解することを目標にしよう

- テクニカル タームを無理に日本語に訳さなくてもよい
- 英語のニュアンスを正確に伝える日本語がなければ、英単語のままでもよい
- 英文パラグラフをそのまま理解し、英語のまま考え英語でまとめる

英単語や文単位で日本語に訳し、日本語で考えてそれをまた再英訳しない



- 60～70%程度のアバウトな内容理解でよい。全文を素早く通読、不明単語は英語のままでもよい。仕事-わからないところは聞けばよい。
- 慣れてくると、まわりの英文から不明単語の意味を類推できるようになる

6. Inbound と Outbound

- 英語4技能の実戦的な違いを意識していこう
- **Inbound : Reading / Listening** (自分の理解度は相手にはわからない)
- **Outbound : Writing / Speaking** (自分は相手に的確に内容を伝えなければならない)

- 状況によって使う英語が違うことを意識しよう
- 話し言葉 Listening / Speaking (消えていく)
 - Speakingでも **Presentation** は別格
- 書き言葉 Reading / **Writing** (記録として残る)

ゆるくてもいいものと
シビアなものを分類しよう

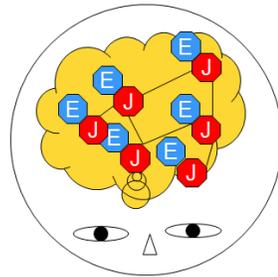
量と的確さの関係を考えよう

詳細は“Study”で解説します

7.授業の課題”要約”の採点ポイント

- 1.正確に英文和訳できているかは重要ではない(学校英語とは違う)
- 2.英文パラグラフの大意をイメージとして捉えているかを見ている
- 3.キーワードやキーセンテンスを捉えているかを見ている

Inbound



Outbound

- 4.理解した英語内容イメージを”要約”として日本語に書き出したものから、2,3の力を読み解いている(英訳力ではなく、英文そのままの理解とそのイメージから自分の言葉で日本語に書き出す(作文)力を見ている。(英文で書く場合は英作文力を見ている。英語で理解して英語で書きだす、日本語が間に入らない-**注意: 英作文力は文法力だけではない-論理的展開力が重要**)